

# タブレット議会を学ぶ 議会活性化・DX推進特別委員会

9月22日に高島町議会決算特別委員会を傍聴し、タブレット端末を活用した議会運営について研修した。

決算特別委員会の終了後には、関陽介議長、山木義明議会運営委員長及び村上奈美子議会議務局長から、タブレット端末導入の経緯やメリット・デメリットを説明いただき、実際にタブレット端末に触れ、質問をさせていただいた。

関議長は、「タブレット端末を活用した議会運営はちょうど1年経過したが、まだまだ試行錯誤している状況。オンライン会議も今後試していく必要がある」と話した。

タブレット導入のメリット・デメリットについて山木委員長は「明らかにペーパーレス化が進んだ。膨大な資料の保存には、労力と場所が

必要。一方で、資料の検索には慣れが必要だが、慣れれば非常に有効だ。スマホでも確認できるため、事務局からの連絡やスケジュール管理もスムーズになった」とのことであった。

最後に、関議長は「タブレット端末や会議システムを導入しただけではDXとは言えない。様々なアプリを利用し、活用していくことがDXの推進であると考えている」と話した。

当町議会でも、将来的にタブレット端末や会議システム、議会中継システムなどを導入し、町当局と一緒にデジタル化を推進していくことが必要であると感じた。議会アンケートの結果も踏まえ、町民から信頼される議会を目指していく。



④高島町議会 関陽介議長、山木義明議会運営委員長と



必要。一方で、資料の検索には慣れが必要だが、慣れれば非常に有効だ。スマホでも確認できるため、事務局からの連絡やスケジュール管理もスムーズになった」とのことであった。

最後に、関議長は「タブレット端末や会議システムを導入しただけではDXとは言えない。様々なアプリを利用し、活用していくことがDXの推進であると考えている」と話した。

当町議会でも、将来的にタブレット端末や会議システム、議会中継システムなどを導入し、町当局と一緒にデジタル化を推進していくことが必要であると感じた。議会アンケートの結果も踏まえ、町民から信頼される議会を目指していく。

山形国際交流プラザ(ビッグウイング)において、山形県内全町村議会議員を対象に、東京大学教授 鈴木宜弘氏、大正大学教授 江藤俊昭氏の両名を講師に迎え、町議会議員研修会が行われた。

鈴木先生からは、「今後の日本農業の課題」、江藤先生からは「町村議会のあり方」議員のなり手不足問題」と題し講演をいただいた。

投票率の低下と無投票当選者率は増加しており、立候補者が定員を下回る「定数割れ」も続出している。なり手不足の原因として、議会・議員の魅力が伝わらない、低い議員報酬など「ならない要因」と地域力の低下、兼業禁止などの「なれない要因」がある。

当町議会としても「存在感のある」議会を目指し、取り組みを改めて認識した研修であった。

## 議会活動の円滑化と機能の高揚へ 令和5年度町議会議員研修会(10/20)

# 10月議会臨時会 ～神室スキー場 休日のみ営業へ～

10/6臨時会が開かれ、補正予算、契約の承認の2件の議案を全員賛成で可決した。グリーンバレーカムロススキー場を休日及び年末年始等の日中に限定して運営するた

### 議案への質疑応答要旨

#### 【議第77号】

星川智子議員 カムロススキー場の運営について、町民にどう説明したらよいか。また、収入の積算の根拠は。

町長 グリーンバレー全体と、交流人口及び高規格道路延伸ということから、グリーンバレーの存在は大きいと再認識した。規模を縮小して運営し、判断材料としたい。

産業課長 例年の売り上げ状況を見ると、土・日・年末年始が売り上げの約8割を占めていることから、概ね半分程度の額を設定した。

大場洋介議員 リフト運行の保守点検及び安全運転に伴う点検はしているのか。また、索道ワイヤーの状況は。

産業課長 目視で確認している。また、通電後にリフトを動かし、再度点検していく。技術管理者の確保も大丈夫である。

沼澤道也議員 運営体制整備の状況は。また、カムロ全体を協議する場があるのか。

町長 私をはじめ、副町長、総務課、総合政策課、産業課で構成するスタッフで協議を行っている。これからの逐次検討を行っていく。

産業課長 神室振興公社を交えた打合せは、毎月一回必ず行っている。スキー場のスタッフについても目処は立っている。

め、必要な予算措置を行った。また、町立金山診療所の医療機器取得の契約を更新した。

須藤典夫議員 グリーンバレー運営が赤字体質の経営でいいのか。

町長 グリーンバレーカムロの運営は現在過渡期であると考えており、赤字が出ていないとは思っていない。これからの注視が続けるとともに、結果を十分総括し、次に向けていきたい。

総合政策課長 事業見直しや施設の集約化により、基金が23億ほどまで積み上がった。今後も財政の綱を緩めることなく、観光交流だけでなく、町民の生活面の支援も充実を図る必要がある。

中村忠行議員 公共事業発注の見通しの公表は本議会後にすべきではないのか。

総合政策課長 ご指摘のとおり、議決後に公表すべきであった。注意してチェックしていく。

#### 【議第78号】

宮林聡志議員 医療機器の取得にあたり、財源内訳、年間の利用回数、診療報酬は。

診療所事務長 県補助金672万5千円、過疎債2380万円、繰入金5万5千円となる。請差など、12月議会で補正予算を考えている。令和2年度からの3年間で289回の利用があり、診療報酬の平均単価は、一般的なCTが1万4700円、大腸CTは2万1640円となっている。年間収入となっている。

### 1. 令和5年度補正予算

議案番号	会計名(補正番号)	補正の主な内容	補正額(万円)	補正後(万円)
議第77号	令和5年度金山町一般会計補正予算(第5号)	・グリーンバレーカムロススキー場関連経費 2088万円 ・森林経営管理・林業振興推進事業(グラップル付きトラック購入) 1600万円 ・金山中学校体育館スポットクーラー導入費 350万円 ・農村環境改善センター裏駐車場舗装工事費 718万円 など	3979	47億7489

### 2. その他

議案番号	議案名	議案の内容
議第78号	全身用X線CT診断装置の取得について	全身用X線CT診断装置1台を東北医療機器(株)代表取締役 伊藤 宗徳より購入するもの